

# 校友會誌

第十四號

昭和七年三月

滋賀縣立彥根中學校

校 友 會 誌

第 四 十 一 號

校友會誌(第四十一號) 目次

第四十四回卒業生 城を巡りて

口 學校長 足立芳之助 一  
 校 歌 學校の學校 理想の學校 二  
 寒 稽古所見 あだち 二

◆ 論 說

特別會員 平井乙麿 三  
 舟崎信誠 一二  
 松宮實 二四  
 藤野精一 二七  
 田中正夫 二九  
 近藤國藏 三一  
 吉本博次 三三  
 小林弘 三四  
 杉橋均五 三七  
 北村清嗣 三八  
 西村覺太郎 三九  
 國友照夫 四〇

侏儒の歌物語 特別會員  
 國防論及新兵器問題(轉載)  
 奮起せよ青年  
 自ら考へよ  
 太平洋  
 赤鬼魂の奮起を望む  
 青 年  
 徳川時代の日本海運  
 蟻  
 動物の獨立  
 蟬  
 トノサマガヘル(金線蛙)の外部觀察

◆ 創 作

犬上郡大瀧村誌 犬上郡大瀧村誌 四一  
 坂田郡息長村誌 坂田郡息長村誌 四八  
 犬上郡河瀬村誌 犬上郡河瀬村誌 五六

詩人キーツ 自己を歌ふ 六一  
 健康と私 波多野雅一 六五  
 純真な心 藤野精一 六七  
 文明の裏面 松宮悌次 六八  
 ミリタリズム 北川東海林郎 七〇  
 山寺生活の一日 北川東海林郎 七一  
 渚 藤村三郎 七九  
 思ひ出すまゝに 初秋 七九  
 初秋の薄暮 初秋の薄暮 八三

◆ 文 苑

悲しき回想 北川東海林郎 一〇三  
 月 若林正三 一〇四  
 病床の思ひ 近藤國藏 一〇四  
 こころ 竹内一 一〇五  
 埃 及 小林弘 一〇七  
 兄弟を送る 新谷又平 一〇八  
 秋の實り 久木信次郎 一〇九  
 師走は語る 西村英男 一〇九  
 おもひで 杉山十三雄 一〇九

然し、それは春だつた 古川傳三郎 八五  
 早 春 若林正三 八七  
 すみみつ 北川東海林郎 八八  
 朝顔の喩 北森末吉 八八  
 去り行きし友 西島輝夫 八九  
 選 手 生 活 西川寛一 九一  
 満洲の野に活動する日本軍人を思ふ 長谷時男 九二  
 冬の城山に登つて 有川幸久 九三  
 夜 明 け 上林久一郎 九四  
 派遣兵見送り 居長賢藏 九五  
 ゑびす講大賣出し 上田真平 九六  
 盛なりし我村を思ふ 種村貞一 九七  
 感 謝 庵野太久馬 九八  
 父 前田多喜男 九八

◆ 詩 藻

遊 天 之 川 特別會員 大和田清朗 一〇〇  
 ◆ 詩 松宮實 一〇一  
 木 枯 名畑惣次 一〇二  
 小さなお舟

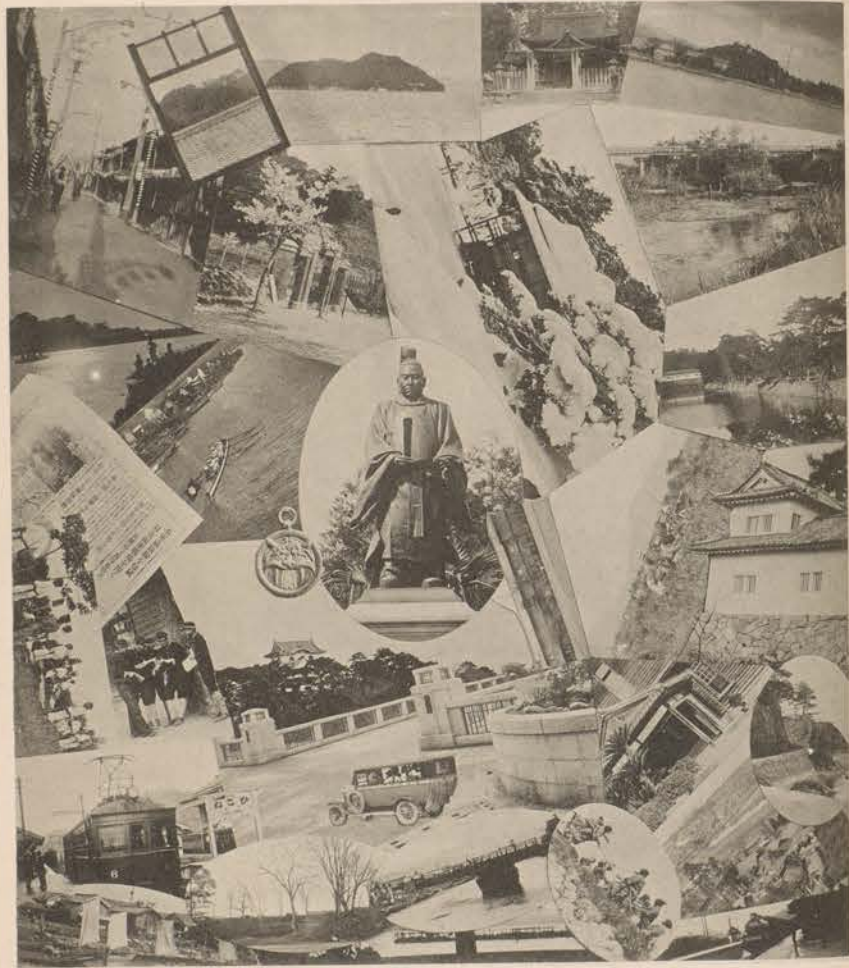
◆ 短 歌

短歌雑詠 特別會員 藤田一一 一一二  
 地圖を染めなほす日 特別會員 平井乙麿 一一三  
 自 畫 像 名畑惣次 一一七  
 爽 竹 桃 牧野新太郎 一二九  
 懐しのクラウンド 若林正三 一二〇  
 秋 四 題 木野戸勝逸 一二〇

◆ 俳 句

夜 若林正三 一一一  
 夜 西村英男 一一一





彦根中學校々歌

湖べの春にかざられて  
雲ふきはらふ膽吹山  
ふもとの若葉あたらしく  
われらが園はかがやけり  
緑しづけき學びやに  
智徳のとぼそ啓きつゝ  
明はなれゆく人の世の  
われらが窓に光あり  
不撓の決意と力行の  
わかき生命にまもられて  
幸とほまれに美はしく  
われらが園はかがやけり

剛健自助の門によりて  
湖畔のまもり嚴かに  
たてる金龜の學びやの  
ああほまれある幾春秋  
金剛不壞のこゝろもて  
つとめ勤しむ森のかけ  
われらが窓の燦爛と  
ああほまれある幾春秋  
天のかがやき地に享けて  
こゝろ澄みたる琵琶の湖  
金龜の春とこしへに  
われらが園は新たなり

彦根中學校校歌

〜調四分ノ四拍子

1=96

5̣.5̣1.5̣ | 3 2 1 - | 5̣ 1 2 3. 1 | 5̣ - - 0 |

ウミベノ ハルニ カザラレー テ  
みじりし づげき まなびやー に  
フダフノ サダト リツカワー ノ  
がうけん じじよの きによりー て

6 6 5. 5 | 4 4 2 - | 5 3. 2 1 2 | 3 - - 5 |

クモフキ ハラフ イブーキヤ マ  
ちさくの さぼそ ひらーきつ つ  
ワカキイ ノチニ マモーラレ テ  
こはんの まもり おごーそか に

5̣.5̣3.7̣ | 1 2 5̣ - | 1 2 3 4. 3 | 2 - - 0 |

フモトノ ワカバ アタラシーク  
あけはな れゆく ひさのよーの  
サチトホ マレニ ウルハシーク  
たてるこ んきの まなびやーの

5̣5̣3.5̣ | 6 6 5 - | 1 2 3. 2 | 1 - - 0 |

ワレラガ ソノハ カガヤケ リ  
われらが まどに ひかりあ リ  
ワレラガ ソノハ カガヤケ リ  
ああほま れある いくしゅん 秋

理想の學校

學校長 足立芳之助

識者のひとりには言ふ。——現今の社會ほど渾沌たるものはない。人は高遠の理想を失ひ確固たる信念を缺き、雷同盲動、ただ當面を糊塗し去りて以て能事了れりとなす。かゝる社會を根本的に改造せんがためには、學校教育を改善して社會の大衆を指導するに足るだけの力量ある人材の養成が、何よりの急務である。

教育家のひとりには言ふ。——當今我等は學校教育に全力を傾倒して、苦心慘憺、眞個の人間を作るのに日もこれ足らぬ有様である。けれども、生徒は社會の環境の中に成人してゐる。我等の、學校において細心の注意と周到の用意とを以て漸く暖め得たることも、冷酷なる社會の風浪に當りては倏忽にして冷却される。教育の十善を企圖せんとすれば、社會の改造が先決の問題である。

社會が悪いから教育が擧がらないのか、教育が擧がらないから社會が悪いのか。そはとまれ、社會が改善せらるれば教育は、おのづから改善せられ、また教育が改善せらるれば社會の改造も期せられる。

社會の改造か教育の改善か。社會は錯雜せる大天地、一朝一夕のよく改造し得るところでない。學校は單純なる小天地、師と生徒との協心戮力さへあれば如何やうともなる。今日のこと、我等の獸身的努力を以て理想の學校を建設するより急なるはない。學校が理想の學校となれば、社會は期せずして理想の社會となる。

教育を受けることは、聽て他を教育することである。刻苦精勵、眞劍に學習してゐる生徒の姿は、觀る者をして襟を正し敬虔の念を覺えしめる。何物にまれ一事に徹底してゐる生徒、否な徹底すべく勇猛精進してゐる生徒は、その友人たると隣人たるとを問はず、將たその兄弟たると父母たるとに論なく、凡そ自己の接觸するほどの者には、何程か良き感化を與へないでは措かない。この意味において、學校は聖地であり生徒は聖徒であると言へる。

聖徒たるの生徒を以て充溢せる聖なる學校。これぞ眞實の理想の學校。師と生徒の淨き務めの意義の深きことよ。

## 寒稽古所見

あ  
だ  
ち

朝闇の街を颯爽たる黒いかたまり、彦中の健兒らだ

寒稽古 おと おと 音 ちから ちから 力

静坐して寒稽古を觀てゐるわれである

空箱たいて客をまつてゐる、魚の市

—昭和六年一月—



## 論 說

### 侏儒の歌物語

平 井 乙 磨

ある日意と城とが暮色につままれた頃、軒のひくい町を歩いてゐますと、古い家の中からひそ／＼話が開えるではありませんか、そこでそつと隙見しますと、驚いたことには侏儒が話してゐるのです。筆者は限りない興味にひきづられて速記した小稿がこれです。これは侏儒の常識だと思はれます。だから筆者も敢てわり易く幼く記してゆきました。

君 和歌つて何だね

和歌？ 大和歌じゃないか 漢詩に對して大和歌を總稱しての名前だらう 廣義にはね だから簡單な例を挙げると 長歌だ

とか 片歌だとか 旋頭歌だとか 狹義の和歌だとか云つたものを汎稱したものだね

僕和歌つて云へば即短歌だと思つたんだが——早計に過ぎたかな

それで好いのだ 外の詩形は皆解消したり亡びたりして和歌つて云へば短歌の形だけが遺されてゐるんだから つまり廣義の和歌を狹義の和歌が代表してゐるんだ だから和歌即短歌と云ふことは先づ常識だね

では亡びた詩形——短歌以外の詩形はどうなつたんだ

亡びただのだよ皆 只長歌だけが辯證法的發展を就げたのだ 即萬葉時代の長歌が平安末期から鎌倉期にかけて同様に解消



し更に飛躍して明治期の新体詩に甦生した譯だね。その新体詩が散文詩にまで進化した事は御存知の通りだ。一休日本の歌詠發達を觀て一般文學と同じ進展を續けたのは長歌唯一つだと云つて差支へあるまいね。

然し君短歌だつて檢討して見給へ。隨分進展してゐるじやないか。早い話が短歌史を繰ると内容の世界の變遷は活目に價する事實を見出すと思ふがね。

さうだ。君の觀方は短歌の歴史的殻の中に於ての問題だが何にしる隨分變遷に變遷を重ねて來てゐるね。萬葉から古今。古今から新古今。徳川期から東京前期。東京後期と大思潮をなして流れ去つてゐるからね。

可笑しい話だが君何故文學つて變遷するんだい。

つまり生活が變るからさ。生活を母胎として思想が生れるのだ。そして人々は絶えず明日を追及するのだ。今日よりは明日。明日よりは。明後日と云ふ風に常に不斷の理想を追及するだらう。するとその理想を求めて理念の活動することが思想の起る理由と觀て好いと思ふね。その思想を美意識の活動のもとに或角度と或觀點とから表現されたもの——即ある精神を或る方法に依つて表記されたものが藝術だから社會の變遷——それに依つて個人の生活も變遷し。個人の生活の變遷することに依つて社會も亦變遷する——と共に藝術の變革が反覆されるのは當然の現象で變遷しない藝術なんてものありつこないだらう。

さうすると君思想のない藝術なんてあり得ない譯だね。さう思ふと成程社會進運時代の藝術と亂熱時代のそれを更に類廢時代のその現れとは截然とした區別を見出すね。

その例を君簡單に述べるとかうだね。古い例を探ると萬葉時代は大化の改新があつたり。佛教の興隆があつたり。彫刻建築方面の美術も大進歩したり——支那印度の文化に刺戟された國民の精神の高揚は遂に千古の寶玉集萬葉集を生み出したからね。だからその萬葉を繙くと生活と歌(藝術)との關係が瞭に諒解されるからね。そして

進運時代の萬葉期から亂熱時代の古今期(平安期)に入るとどうです。全く藝術は遊戯になつて來ましたね。例を短歌にとつて見ても高踏的遊戯以上のものは認められない。大体あの時代は藤原氏以外は人でなかつた時代で——榮達の道を一門の手中に納めた藤氏は太平の夢と限りない顯榮に酔ひしれて今日も明日もと櫻狩や紅葉狩に時の長きを託つた時勢でね。で風流だ

とか風雅の道だとか享樂を満足させる方法が最善至上の生活法だつたのだ。そこであの歌詠の優長が必要であつたのだらう。あしびきの山鳥の尾のしだりをのながし夜をときて獨りかもねむ——はどうも噴飯物だね。第一君古今集の歌は大部分が屏風の歌だと云ふに至つては驚嘆に價するね。思つても見給へ藤氏の生活を。華美を誇つた實に燭火が煌々と照つて趣向を凝した調度が冷艶な光を投げてゐる。その室の周圍には當代隨一の畫工が揮つた麗筆の屏風が張り廻らされてゐる。さてさうして徐ろに詩歌管絃の樂がみやびを達に玩ばれるのだ。そんな譯だから屏風の繪だつて享樂を満足さすべき繪を描かせたらうし更にその畫に暗合すべき生活から遊離した宴樂の興趣を助けるべき歌を要求されたのだから——繪屏風が出來て後から歌を書かせられたのだから——自然描かるべき繪も歌も花鳥風月の世界が暗黙のうちに選定せられるやうになり其の永い間の慣習が遂に歌題の範圍を花鳥風月にまで限定して來たのだ。

なるほど——萬葉の庶民藝術がいつの間にか貴族の遊戯になつて本質的に墮落したのだね。

處で古今の調のことまで説明が要るのだが——あの時代は貴族の宴樂のとき琴などに合せて歌を歌つたものだ。あてやかな舞を舞ひつゝね。或はまた都大路に櫻を翳し木履で長吟しながら歩いた時歌のリズムと呼吸の接點がびつたり符合したので前に述べた理由即貴族生活の要求やら生理的關係やらで内容に聊の反省も顧慮せられないであつた外形の美ばかりが凝されたのだらう。この時代は生活と藝術の遊離時代だ。新古今時代(鎌倉期)は幽玄なもの高遠なもの(漢詩の影響を受けて)諸行無常の思想からさうした藝術が誘起されたのだが。生活と藝術との關係が詳述された譯だから此の項は他日また筆硯を新にして論じる事にしよう。

君の説明ですつかり生活と藝術との關係は諒解されたが藝術も其處まで來ると藝術と云はれるべき域を脱してゐるね。僕定家の秘傳つても見たが實に下らないものだつたな。然し君。藤原公任の歌學は實に素張らしいじやないか。此の時代に定形否定の歌論をやつてゐるからね。爲兼の現實主義なんかも斷然光つてゐるな。あんな人も當時の世の中にゐたのかと思と心強い限りだが盲千人の目明きは梅葦の日が多かつたらうよ。まあ。こんな話は此の位で切りあげて此の話はどう締切がつくのだね。欠申が出ないやうにやつて呉れないか。

そんでね その花鳥風月の趣味的な歌が其のまゝ踏襲されて明治初期まで来たのだ（その間五、六の立派な歌人も出たが）その長い長い慣習が實に歌道を墮落するべく運命づけてゐたのだ

で啄木が憤慨したのかい？

まあ待て で明治期になると社會組織がすっかり變つたらう早い話が丁髷が無くなる洋服が用ゐられる赤瓦の文化住宅が出来たり汽車に乗つたり汽船に揺られたり西洋の文化は毎日波打つて押寄せるし思想はすっかり變つたね で一般文學の域内に棲む短歌もうんと變つたね

どう變つたんだい

明治初期には景樹の流れを掬んだ景園派が御歌所を牛耳つてそれが主派をなしてゐたのだ 處が世は文明開化の御代となつても様に依つて胡蘆を畫くつて譯で花鳥風月の範圍を越え得なかつたものだから民衆とは懸絶するばかりで——和歌滅亡論なんて盛に起つたものだ かゝる状態が遂に改革論者を要求して來てね

で落合直文先生。子規。信綱先生つて人々が輩出したのだらう

君 その頃は和歌に對して革進歌を新派和歌と云つて歌に非ざる歌としてひどく冷笑されたんだらう

その通り それから？

それから本當の改革はその弟子の手で完成されたのじやないのかい 鐵幹。柴舟。薰園。啄木と云つたやうな その頃啄木の生活歌なんか實に逆待されたらしいね 改革者はいつの時代だつて寵遇されはしないが だが時流は遂に新運動を與へて和歌は何時の間にか舊派和歌と呼ばれるやうになり新派和歌は唯短歌と呼ばれて歴史的正統を誇るやうになつたんだね つまり形式だけに命を保つて來たものが文明開化の新思潮に脆くも内部から壞れて來たのだらう 理由は舊派の人々は歌題を極度に限界して花鳥風月の埒内にのみ生存を許され而も表現する場合には之復雅語と稱するものがあつて雅語を使用しなければ歌でないと思つてゐたらしいね

つまり君俗語の驅使が趣味性を破るつて譯でね 然し之は大きな誤謬を犯してゐるんだよ 何と云つたつて吾々の最も忠實

な僕は現代語を置いては外にない譯だらう だからさ 江戸時代に俳句が盛になつたのも一つは俗語の使用を歌で禁じたからだからね 其の事から考へて見ても舊派の歌人から見れば啄木などは許す可らざる歌道の異端者邪道者だつたのだらうよ 然し人は心の叫び 眞實の訴へには盲である譯に行かないから閉された胸も遂に新歌人に依つて醒されたわけだ

君の要旨はかうだね——歴史的传统を誇つた和歌が邪道か傍流に蔑視されてゐた新派和歌に取つて代られた——つまり位置を顛倒して新派和歌が歌の本流になつたと云ふのだらう

で思潮の方面から覗けばローマン主義から自然主義に歩みを進めたのだ之は嘗て話した記憶があるから割愛しちやつて——君新興短歌運動つて知つてるかい

知らないね 何時から起きたんだい また どうして起す必要に迫られたのだい 必然的な理由があるのかい

この運動の先驅を爲すとも云ふべきものは餘程前からあつたんだがね素張らしい勢で歌壇を動搖させたのは、つい最近で昭和三年さ 新興短歌は又の名を自由律短歌とも基準律短歌とも稱せられてゐた その運動の必然性と云ふのはつまり 君藝術つてやつは眞實を要求するものつて定理に間違のない限り遊戯は似而非なる藝術と云つても過言じやあるまい 問題はそこに孕まれるのだ

最近の社會はとも過速度的に文化現象の進運を招來したらう 科學文明の所産は現代人の美意識に大變動大異動を招致して來た 一体動的なものは過去の美意識から見れば拒否されて來たのだが現代人はさうでない 飛行機を愛し汽船を眺め自動車や賞し齒車の整然たる運行に見呆れたりベースボールに熱狂したりラグビーの内弾相搏つ壯觀に眼を奪はれたり凡そスピードのあるもの力學的なものにより多くの美を認めてゐる そこで近代的美を形大に把持し近代人の多大の憧憬である飛行機の歌を作る場合在來の定音數律歌で成功した歌は一首もない 素張らしいスピードと整備したエンジンの機能は定つた音數律に盛り切れない そこで無理に押込むと飛行機の職能を喪失した變な作品が出来る 外形だけは短歌の面貌を具へてゐるが飛行機の本質——眞實性を失つてゐる以上似而非なる作品になる 之は眞の意味に於ける藝術品とは云ひ得ない こんな譯で近代文化から短歌が次第に遊離の傾向を辿りつゝあるのだ 之が眞に藝術を愛する者として觀過出來ようかね だから近代主義

文明に適應する短歌形態を建設しようて意圖を持つやうになつたのだ 啄木が新しい藝術の世界を開拓したやうに

然し君 定型律の中に時代性を把握することは出来ないものか さう努力することが歌道の進歩だと思はれるのだが——

君の考へ方は誰しも考へられる問題で最初は誰もやつたことなどで皆失敗した努力なのさ その失敗が生んだ萌芽がこの運動だ 形だけの藝術 精神を失くした藝術そんなものは幾ら努力したつて水泡の空しさに終るだけで民衆をアツピールすることは出来ない 畫餅は竟に畫餅であらうし描かれた美人は竟にそれ以上には出でないだらう 定型歌は斯くして畫餅であり畫美人であるに過ぎない 亡びるものを背負つて最後の華やかさに跳つてゐるのだ

そんじや君新興短歌の作品を見せて呉れない 對比して考へたいのだ

觀て呉れ給へ 失禮だけど僕の作品をお眼に掛けよう

君これでリズムがあるのかい リズムに對する考慮は必要ないのかね

リズム(註ある特殊の單位、即一の音 一の運動 及び 一の形の規則正しき反覆)大いに必要があるさ 畢竟短歌が音律詩である限り如何なる革進運動だつてリズムぬきの運動なんて考へられない事だ 唯此の場合は律の構成法が違つて來るのだ 五、七音などの合成音が單位を作らないで二音三音などの單位音がリズムを作つたり或は九音十音と云ふやうな大きな合成音をなしてゐるのさ も一つは在來の形式律だけでなくて内在的律があることに注目してほしいよ

理屈はさうか知らないがどうも律感が起きないね

君は慣習性に支配されすぎてゐるのだ 作品自体を單位音數にまで分解して考へて見給へ

僕新興短歌に好感が持てないのは言葉がいやな點も大いに禍してゐると思ふのだ

あゝ君は終に僕のよき伴侶ではない 下らない考へはよして言葉の性質つてものを熟考して見給へ 君の嫌だと云ふ根據は現代語の使用と云ふ事だらうが 君言葉つて奴は實に微妙な働きを持つてゐる奴で我々の最も忠實な使者は現代語より外にない よく現代の歌人がけるかも。べらなり。なんて言葉を使用するが困つたものだあんな言葉で複雑極まりない現代人の感情が表出出来るかい 既往の死語を使つて得々としてゐる態度にはどうにも好感が持てない 時代が違へばその語のもつ内容が違

ふのだから もつと言葉の敏感性に就て検討しても無駄ではあるまい 此の點雅語なんて稱へるのは大間違でそんな惡戯は短歌の進展を毒するものだよ だから吾々は生々しい感情を傳へる爲に現代語を使用するのだ どうだこれでも嫌か

そんじや君現代語が定音數律を破壊せねばならなかつた理由を説明し給へ 前に話した平安朝時代に何故あの調が必要であつたかと云ふやうな歴史的な説明でなしにね 單純な質疑だ ある内容を嘗ては五音で表出出来たものが時代が複雑性を加へた爲八音九音を必要とする場合が出来るし且その反對に嘗ては七音を要したものが現代では四音三音で間に合ふ場合があるし——言葉の持つ量は不斷に移動を續けてゐるものだ だから藝術が眞實を欲する限り四音で實に精靈を傳へ得るものを五音に伸ばしてほやかすこと或は又九音を絶對に必要とするものを單なる音樂的なものを求める爲に七音に壓縮して内容を歪曲する遊戯は藝術の眞精神に悖る譯になる 五句三十一音律が現代語の使用に依つて破れる必然性は十分認められるだらう

君の短歌運動の精神——言葉の問題生理的關係 社會機構概括して近代主義文化に適應せしめる爲に型態の改革が必然的な要求をもつたと云ふ理由は十分諒解されたのだが 五句三十一音律を揚棄して即歴史性を破つて尙短歌と云はれ得る理由を説明して呉れ給へ

定音數律歌は形の上だけで生命を繼續して來てゐるのだがそれは上述した通り過去の悲しき玩具になりつつあるんだ そこで短歌を甦生させる熱意から 短歌の本質、歴史的なものには型態そのものにあるのか或は別に短歌を構成する要素が存在するか總ゆる方面から検討が加へられた結果短歌性なるものが強調されるやうになつた その代表的なものを紹介すると 前田夕暮氏の短歌の重量感説 大熊信行氏の短歌の定量性説 土田杏村氏の短歌の精神構造説が一番纏つたものであるが前二者は引證部分が尙大に失するから短くてすむ杏村氏の説を拜借しよう

(前畧) 斯様の自由律現代語歌は、それでも短歌といへるか、勿論いつて差支へない。これこそ短歌の歴史的形式をついだものである。私は短歌の精神構造を考へて居ります。短歌をして現實を捕捉する。精神の上に一の構造がある「これは人だ」——この形式も一つの現實捕捉の精神構造である。私はそれを(A+B)の形式で示しました。次に「彼は新短歌歌人だ」——と申しましたと致します。この形式を(C+D)と致します。短歌と云ふものは、常に(A+B)+(C+D)の二段構成形式

を持つものだと思ひます

これは二句的構成とは違ひます。句の外形の上でいつたのではない。認識する精神の構造をいつたのである。我々はいかに構造の精神を二段構成のものとして、現實的に見渡しつゝ、把持してゐる。一統一の精神であるが、その中に一つ大きな挫折がある。俳句では(A+B)で終つてしまひます短歌のやうに大きな屈折がない。もつと單純な精神統一である。短歌の精神統一の上になほ一つの大きな屈折が加はると三段構成となつて長詩になります

二段構成は勿論外形の上の三句、四句、五句構成を許します。二句構成だけになるのは不自然である。併し三句、四句、五句になつても、その句が精神統一の中心として皆同一の力を持つわけではない。弱い力の部分がある。そして全体を見渡すと、内生命としては山脈の高い部分が二箇所ある。それで短歌となるのである。また私が(A+B)+(C+D)を申しますと、非常に短い言葉でわざわざこの外形々式のものをごしらへ「これはどうだ」と申します。「雨降り地固る」といふ類であります。ところがこれは、外形はいかにも二段構成であるが、精神構成としては二段構成にならない。論理的にはさうなるかも知れないが、藝術意識としてはさうはならない。この全体に山は二つはない。小山は二つあるがその二つの小山が近く並んで一つの山をなしてゐる。若しも「雨降り」「地固る」の小山をはつきり分裂させて二つの山による山脈にしようとするれば、その分裂をはつきりさせるやうにもつと言葉を加へなければならぬ、さうすれば短歌が出来ます

かくいへば「それでは又一つの定型論になるのではないか」と申す人があります。決してさうではありません。我々は(A+B)か(A+B)+(C+D)か更にそれ以上の階段の精神の構造を以て、現實把握をなすより外に方法がない。それが現實認識の人間形式である。然らば我々は、定型をこしらへ上げるのではない。精神の固有形式によつたのである。そして一段、二段、三段、等々はその時の任意であつてよい。併し二段の把持は必ず存在する。だから短歌の世界は必ず存在するのであります。短歌は三十一音形式だと申しますがそれは外形の事であつて、歌論の上では昔より精神構造が私の云つたやうなものであることを考へて居りました。「新撰髓腦」はその一例であります。それ故二段構成論こそは、歌學の中心的主張を傳承したものであります」以上抄

なるほどね 然し君三十一音が漠然と標準にはなつてゐても型態が破れた以上短詩との區別をもつと判然として呉れないかね

僕は今迄から考へてゐる 作爲する場合の意識上の相違で歴史的短歌性へ求心的に意識活動が働く場合は短歌で外界への擴充を求めて遠心的意識活動の場合短詩或は詩となるので作品を生む場合の意識活動の範圍或は拘束力と云つたものがポイントを握る譯だね

僕はよくこんな事を耳にするのだが——この題材なら定型律でも歌へるとか此れなら新短歌がいゝとか、あれは君どうだらう

あの論は成立しないね 現代人だつて近代文化のみに限らず一木一草にだつて限らない愛着の世界はあるが其の場合現代人としての認識の方法觀點の角度が問題になるのだ 即現代人は現代人らしい認識の角度と方法を持つことが必要だ 換言すればポエジイの問題だね だから此の場合は定型此の場合は新短歌なんてそんな歌論は成立しない 此の邊は十分考へて貰はなければならぬと思ふね

では作歌する場合難易は何れにあるね

乏しい經驗からすれば新興短歌だね 僕もと定型歌をやつてゐたのだが形があれば兎も角歌らしいものになるが新短歌の如く形があるやうで無いやうなものは形の上では歌と認めさせる事が出来ないのだから勢ひ内容の方面で苦心せなければならぬ そこに數倍する苦勞が要る譯だ

筆者は限りある紙數のなかで之だけのものを纏めて見たが回顧して見ると落すべからざるものを落してゐるし不備な點も澤山發見してゐる 短歌の現實主義にも筆を染めてゐないし近代主義文化の説明もしてゐない 然し只新短歌が生れた理由定型が破毀されねばならぬ必然性だけはよく説明し盡したと思つてゐる その點だけに貧しいよろこびを残して稿を置くことにした

## 國防論及び新兵器問題 (轉載)

### 國防の本質

舟崎信誠

「軍縮の聲は尤もだと思ふ。今日の不景氣は要するに日本の産業が振はないことに原因してゐる。して見れば今日拾六億圓の豫算の内陸海軍に五億圓の金を費消するのは一層不景氣を助長する所以でないか。この不生産費を節約して國民の負擔軽減にあてる。吾々は此に依つて生活苦の幾分でも緩和することが出来、進んで産業資本に幾分でも振り向ける事になれば不景氣打開の一助ともなり前途に光明を有することになりはしないか」といふのが當代の常識的定説である。だが國防費の數字や割合については世人の考へは大いに誤つてゐる。我陸軍費は歐米列強や露國の陸軍費と比較して寧ろ少額に過ぎる。勿論今日一般國民の深刻なる生活難に直面して負擔の軽減國費の節約を考へるのは尤もの事だと思ふ。併し國防其の物は本來國家國民の生存發展の爲の絶對的要件であつて固より一般産業的施設と同列に取り扱はるべき性質の物でない。國防は産業を超越し同時に産業を擁護し産業の海外發展を掩護し誘導し助成する重大の意義を持つてゐるのだ。此の點をよく考へず国防問題を輕々に議論すると國家を誤り國民を誤り産業不振を來すは勿論の事國家の存亡にも拘はる重大な結果を招來する事になつてしまふのだ。國家國民といふ立場を投げ捨てて單に赤裸々々の一人間として見ても吾々が生命をつなぐ爲には着物が要る米が要る家が要るのだ。が之は勿論利益を産み出す資本ではない。この要求を満さんが爲に吾々は汝々營々として日々夜々働いてゐる。衣食住なしに吾々は生きて行けない。勿論大厦高樓美衣美食美酒佳肴それは結構な事である。併し之は互ひ貧乏人に取つて願

つても出来ない相談としても少くとも堀立て小屋木綿着麥飯漬物位の程度でも衣食住と名のつくものは萬人に是非共必要だ。極寒極暑どんなに勞働が苦しくとも之は稼ぎ出さねばならぬ。之と同様に民族的團結たる國家國民の生存發展の要件として國防といふ物は是非共なくてはならぬ物だ。個人に於ける生活資料と同様の意味で國防は國民の生存上缺くべからざる絶對的要件だ。世界列強瓜牙を磨き虎視耽々たる今日國防完からずんばその國家國民は必ずや土崩瓦解する。國家に國防のない場合を考へるがいい。到る處暴動の蜂起だ。外國軍隊の侵入だ。萬事を解決するのは力だ。國法だ、國際法だと言つた所でその背後に軍隊の威力がなかつたら一片の白紙一枚の空證文に等しい。世界列強と交通しない鎖國冬眠の時代でも國防の威力なければ國民多數の生活は常に脅威され暴力横行百鬼夜行戦々兢々寸時もその生に安んずるを得ない。況んや今日は陸海百萬の軍隊巨艦は勿論無線航空といふスピード時代尖端的空中角逐の世の中だ。國防のがつちりした威力がなければ産業や移民の海外進出どころでない。國家自體の存在すら確保出来ない。國防は吾々の安住を保護して呉れる家だ。國防あつてこそ吾々は安全に生きて行けるのだ。勿論國防は産業でない。生活資料を直接吾々に提供しない。併し之があるが爲に産業に従事し生活の享樂が出来るのだ。即ち産業や生活の擁護者だ。産業振興の爲に國防を犠牲にせよ生活享樂の爲に陸海軍費を削減しろと言ふのは田地を買ひたい爲に雨漏りの修繕費も出したくない、寒空に暖かい着物も着ない、そこで風邪にかかる。田地は買つたが、肺炎を起して死んでしまつた、といふのと同様なものである。軍部當局が戦つて勝つといふ自信を有し得る事が國防設定の最小限度である。それ以下では嚴格な意味で國防とは言へない。この最小限度は絶對的限界であり死線其のものだ。

### 空軍問題

今日陸軍型飛行機には重爆撃機を始めとし輕爆撃機、戦闘機偵察機等の種類があるが、飛行機一臺の値段は五六萬圓から貳拾萬圓といふ高價でその使用命数は時間にすると五百時間乃至一千時間だから、平均約七百五十時間になる。假りに一臺平均拾貳萬圓としても百臺で千貳百萬圓を要し命數七百五十時間として大體一ヶ月晝夜ぶつ通しに百臺が飛ぶと千貳百萬圓がすつとんでしまふ事になる。此の割合で百臺の飛行機を一ヶ月晝夜續けてとばすには千二百臺分の壹億四千四百萬圓を要するのだからたまらぬ。勿論ガンリン代も亦莫大な金額に上るが、そこで結局は空軍の充實は金との相談になるのだ。どしどし代りの

飛行機を作る金がなければ虎の子同様に大事にしまつて置いて時たま引き出して来る位のことです。我慢し一臺の壽命を一年とか二年とか引き延ばす外はない。先づ日本並に列強陸軍に於ける最近の航空部隊の兵力を見よう。

列強陸軍飛行機現在数

|     |      |     |      |      |      |
|-----|------|-----|------|------|------|
| 日本  | 六〇〇  | ロシア | 一六〇〇 | 米    | 一五〇〇 |
| 英國  | 一五〇〇 | 佛   | 四〇〇〇 | イタリー | 一八〇〇 |
| ドイツ |      |     |      |      |      |

航空隊は平和條約により禁止さる。但し民間航空事業の發達は列強に卓越し定期航空路は一萬五六千哩に上り飛行機操縦者は千數百名の多數で一朝戰端勃發の場合即時一千機の空軍編成が出来る。

列強空軍現有勢力比較

日本 陸軍 偵察一一、戰闘一一、爆撃四、合計二六中隊 氣球中隊二 海軍十七隊  
 露國 陸上航空部隊 偵察六八、驅逐二二、爆撃二二、計一〇一中隊 水上航空部隊 偵察一二、驅逐五、爆撃三、計二〇中隊 合計二二中隊 氣球一三中隊  
 米國 陸軍 驅逐八、偵察一二、攻撃二、爆撃八、學校一二、計四二中隊 護國軍偵察一八中隊 合計六十中隊 飛行船四中隊 海軍四九隊  
 英國 正規七〇、五中隊 特別豫備四中隊 補助空軍八中隊 合計八二、五中隊  
 佛國 偵察七二、驅逐三三、輕爆撃二〇、重爆撃一二、計一三六中隊 氣球一八中隊  
 伊國 偵察三六、驅逐三五、爆撃二六、植民地空軍六、計一〇三中隊 飛行船三中隊  
 日本陸軍の航空部隊 八聯隊、二十六中隊  
 偵察三聯隊、戰闘二聯隊、混合二聯隊、爆撃一聯隊  
 聯隊所在地 各務ヶ原二箇聯隊、八日市、立川、太刀洗、平壤、屏東、濱松の各一聯隊、飛行機六百  
 最近歐米空軍の顯著なる發展と比較し日本空軍の貧弱さが明白だ。日本の航空部隊は陸海軍各部内の他の一兵科と同様な地位に置かれてゐるに過ぎぬ。歐米列強では最近着々と空軍充實の計畫を進め現に英佛伊露の四國は空軍の統一を行ひ空軍省を設置し陸海空の三軍を鼎立せしめてゐる。日本は何故に空軍省を設けぬか。日本空軍費は昭和四年度豫算に於て陸軍貳千六百萬圓海軍貳千八百萬圓合計五千四百萬圓に過ぎぬ。

一九二九、三〇年度列強空軍豫算比較

|         |                       |
|---------|-----------------------|
| 米國 (陸軍) | 三千四百七十萬弗 (ドルは二圓六厘)    |
| 英國 (空軍) | 千七百八十五萬ポンド (封度は九圓七六錢) |
| 佛國 (空軍) | 十二億七千九百萬フラン           |
| 伊國 (空軍) | 七億九千萬リラ (フラン及リラ三八錢七厘) |

最近空軍をリードするに至つたものは爆撃隊である。今日歐米列強が専ら爆撃隊の充實に力を注いでゐるのはその爲だ。即ち戰端勃發に際し爆撃隊によつて敵國を攻撃し敵國の資源や交通機關を破壊し敵軍の作戰上重大なる齟齬を生ぜしむると同時に敵國の軍隊の士氣を挫き敵國民を脅威しようといふのだ。即ち爆撃隊の任務としては重爆撃隊は一トン以上の爆弾を搭載して深く敵地に侵入し重要都市飛行機根據地停車場軍需品倉庫發電所等の爆撃破壊を使命とし輕爆撃隊は敵の密集部隊や陣地諸施設の爆撃破壊を任務とする。重爆撃機は建造費拾六七萬圓乃至貳拾萬圓輕爆撃機すら拾萬圓内外を要す。爆撃一箇聯隊の經費は一箇師團五百萬圓の經費に匹敵する。日本には爆撃隊は濱松に一箇聯隊あるのみで重爆撃二中隊及輕爆撃二中隊の四箇中隊より成る。日本は列強に比し最下位の貧弱振りだ。

世界列強の爆撃隊比較

|    |      |    |      |    |      |
|----|------|----|------|----|------|
| 佛國 | 三二中隊 | 伊國 | 二六中隊 | 英國 | 二四中隊 |
| 露國 | 一二中隊 | 米國 | 八中隊  | 日本 | 四中隊  |

今や爆撃隊時代は吾々の眼前に展開してゐるのだ。一佛トンの爆弾を搭載して一千五百斤の長距離を飛行し敵地に爆弾を投下したる後再び根據地に歸還し得るといふ恐るべき空中大魔王の襲來に對し日本の長蛇の如き五千斤の全領土が丸裸となつて

暴露されることになつたのだ。極東大戦勃發の場合にウラヂオ、大連、上海、父島等に根據地を設定した敵軍爆撃隊は容易に帝都を襲撃し得る。爆弾の命中率は約一〇％位と見てよいがマツチ箱の積み重ねに過ぎない日本都市の如きはどこに投下したつてすぐ火災となること請合だ。東京市の真上から七八トンの爆弾が投下されたら大震災當時の慘狀を惹起し帝都は全滅といふことになるのだ。そこで問題は空中襲來をどうして防禦するか、どうして撃退するかといふ事になるのだが戦術上では敵機をして一步も我領土内に入れない、敵影を見れば即時我空軍が出動し撃退するを理想とし空中の敵に對しては空中威力を以てせよといふのだ。所で戦争の要諦は敵の虚をつくに在る。敵味方空軍が相匹敵した場合でも理想通り空中防備が出来るものでない。そこで高射砲隊を設けて敵機を射落すといふ方法が講じられる。が之亦日本はドイツを除く歐米列強中の最下位にあり高射砲數四十門で高射砲隊は濱松に一箇聯隊と外に一中隊あるのみで頼りにならぬ。

最近列強高射砲隊比較

|    |                |      |    |              |      |
|----|----------------|------|----|--------------|------|
| 米國 | 六聯外に高射砲機關銃四八一三 | 三〇九門 | 佛國 | 五聯隊(五〇中隊)と十隊 | 二〇〇門 |
| 伊國 | 十二隊            | 一四四門 | 日本 | 一聯隊と一中隊      | 四〇門  |
| 英國 | 正規軍二大隊(十二中隊)   | 四八門  |    |              |      |

平時は高射砲一大隊及對空照明大隊を以て正規軍對空防禦旅團二個を編成す。戦時は本旅團に飛行大隊をもぞくし、二乃至五旅團を以て對空師團を編成す。

露國 自動車聯隊一(三十六門)列車大隊一(八門)四四門 ドイツ 二八門

歐洲大戰に於けるベリ、ロンドン等の對空防禦施設に鑑み我陸軍も昭和四年度以降三ヶ年計畫總額五百五十餘萬圓を以て重要都市對空防禦の計畫を樹立したが領土は長い、都市は多い。かかる少額のお金では果してどれだけ効果が上げられるか固より疑問だ。要するに空軍並びに對空防禦施設は日本にとつて極東の風雲刻々急ならんとする今日實に重大の問題たること明瞭だ。在來の姑息因循な牛歩的遺方をすつぱりと投げ棄ててこの際斷然世界の空軍をリードする意氣込みで男性的大計畫を樹立して貰ひたい。現に我海軍當局はロンドン海軍條約に於ける日本の七割讓歩に依る國防上の缺陷は空軍の大擴張を以て補充するを

要し日米戦争勃發の場合米國が東洋進出に使用し得る飛行機合せて約六百機に對抗する爲には現在の海軍航空隊を三倍たらしむる必要ありと主張してゐる。陸軍にしたつてソヴェート航空隊に對抗せんが爲には現在の陸軍航空隊を三倍や四倍に擴張すべき必要あるは勿論だ。否大陸各地より相次いで敵軍爆撃隊襲來といふ場合には三倍四倍にしたつて未だ不足だと思はれる。詮じ詰めると空軍問題から我國防を觀察しても大戦勃發と同時に即時極東大陸一帯の陣地を確保する事が必要になる。日本人が敵機襲來に際して常識を失し狂亂的恐怖状態に陥るべきは關東大震災當時五萬の軍隊出動を煩はしたあの狂態に徴しても火を見るよりも明らかである。今日日本の定期航空路は日本航空輸送會社の經營あるのみと言つてよい。航空輸送會社が一回とぶと東京大阪間ですらその飛行費用八百五十拾圓、之に對して乗客六人として一人拾圓の總收入八百八十拾圓だ。郵便物及貨物輸送料が假りに百圓としても合計貳百八十拾圓で五百七拾圓の缺損となる。政府の補助がなかつたら算盤のもてる事業でない。ついでに歐米列強民間航空事業の輪廓だけでも紹介しよう。

歐米列強の民間航空界

露國一九二二年革命軍事會議の際當時の陸海軍大臣トロッキは向後三年間に三千臺の飛行機を常備する希望あるを言明したロシア空軍はその後着々として發展し同時に公私航空輸送方面も最近著しき發展を遂げてゐる。今日では國內 通のみならず東亞方面に於いてはウエルフネウジンスクと庫倫間中央アジアに於いてはテルメーズとカプールの定期航空を開設し今や航空路十數線を算しその延長は一萬五千裡に達する。

尙露國航空事業中民間施設として特筆すべきものに航空化學協會がある。本協會は民間機關であるがソヴェート政府當局の指導を受け政府の補助金と會員の據金によつて航空機並に化學兵器の進歩發達を目的としてゐる。最近會員二百五萬八千人資金七百萬ルーブルに達したと言はれる。

米國陸海以外に政府經營の航空機には森林巡邏飛行(四二機)及酒密造監視國境警邏並に天災に對し使用するもの若干がある。

民間航空事業は實に驚異すべき發展を示し最近の航空路三萬哩に達し且その大部分は夜間飛行の設備あり。

英國、英國も夙に民間航空事業に留意し國庫より補助を與へ之を助長誘導する策を樹ててゐる。

2 一九二五年四月一日より帝國航空會社を創設せしめ十年間に百萬ポンドの補助を定めた。同會社は現に歐洲大陸その他に着々定期航空路を延長してゐる。

3 尙ほ英國は最近英國印度間に定期飛行船航空路を開拓すべく銳意その計畫を進めてゐる。その開拓者とも云ふべきR一〇一號飛行船が最近中途に遭難したのは周知の通りだ。

佛國、佛國民間飛行の創設は一九一九年に始まり政府の補助と民間當事者の努力により今や顯著なる發達を示すに至つた。一九二八年度の民間航空の爲の航空次官局豫算は二億一千九百萬フランの多きに上つた。

2 民間定期航空路は國際線國內線植民地線に分れ主要航路延長一九二七年に於いて一萬三千四百八十三軒也。

伊國、最近政府の助長政策確立と民間當事者の努力により漸次に定期航空路の發展を示しつつある。

2 政府の補助金は一九二六年度以降年額約一億リラ。

ドイツ、ドイツは平和條約により陸海軍航空部隊保有を禁止されあるも民間航空界の盛況は列強に卓越し、いざ戰爭勃發の際は一千機内外の空軍を編成し得る爲現に佛國は之が爲に一大脅威を受けてゐる。

2 先年ドイツは軍隊將校がスポーツとして飛行機搭乗は禁止の限りに非ずとし遂に三十六名の承認を得警察隊でも任務上航空知識を要すとの口實で五十名の飛行士養成を認めらるるに至つた。

3 民間飛行機操縦者は千名以上の多きに達してゐる。

4 ドイツの航空豫算は一九二八年度五千五百萬マーク。一九二七年の航空路全長二〇四〇八軒で最近定期航空路の全延長は一萬五千哩に達し驚異すべき進出振りだ。

### 毒 瓦 斯 問 題

佛國戰場五ヶ年に亘る惡戰苦闘の間に敵味方共に全力を傾倒して新兵器の發明創設に苦心した結果大戰を一期劃として今や空軍爆撃隊の脅威を始めとし毒ガス、戰車、裝甲自動車、裝甲列車、長距離砲、列車砲、高射砲等の恐るべき威力ある新兵器が續々として我等の眼前に展開されてゐる。新兵器界の大魔王でありモンスターである毒ガスについて研究しよう。現にソヴエート軍部當局の如きは將來の大戦は必ず化學戰たるべきを確信してゐる位だから吾々としては大いに研究しなければならぬ問題だ。本來毒ガスの使用は一八九九年ハーグ平和會議以來國際法上之を禁止してゐる。併し國際法なんか、いざ戰爭となれば一片の紙屑同様だ。守る守らぬはもと／＼各國の自由問題だ。戰爭そのものが人道を超越してゐる。手段の巧拙の問題はあるが善惡の問題は無くなる。如何にすれば一日も早く敵軍を粉碎して宣戰の目的を達し得るかの問題あるのみ。尤もお互ひ人間様は偽善的といふか何事にも表面の體裁だけは殊勝らしく立派な口をききたがる。毒ガス問題もそれだ。どの國際會議にも型の如くきまつて議題に上りいつも毒ガス禁止異議なしイエス、オライとくるのだがお國へ歸つては斯様な條約には一向お構ひなしにどし／＼と平氣の平左ではないか。汗水たらして毒ガス戰部の充實擴張をやつてゐるのが世界の現状だ。一八九九年のハーグ國際平和條約では人道問題の見地から窒息又は健康に有害なる物質抛射を唯一目的とする抛射物の使用禁止について協定したのは事實だ。而もその結果は如何に無慘に蹂躪されたかは諸君の知る通りだ。歐洲大戰後一九二二年のワシントン會議に於ても日米英佛伊の五大強國は毒ガス使用禁止に關するハーグ條約の尊重について決議したが尊重の程度は舊套依然たりで口先だけの空約束に過ぎない。論より證據ワシントン會議の主宰者たる米國が最尖端を切つて大仕掛の毒ガス戰部をもつてゐるから皮肉ではないか。而もその理由は男性的で頗る振つてゐる。毒ガスの使用は他の何れの戰爭手段よりも遙かに人道的で危険少く且經濟的だと公然として壯語してゐるから驚く。そこで米國は今日大規模の化學戰部を設け毎年百萬弗乃至二百萬弗の巨費を投じて着々と毒ガス研究を進めてゐる。英國も亦同様だ。その理由としては體裁よくこじつけてワシントン會議の協定は五國間のみの協定で他國が參戰の場合には効果はないのだ。故に敵の毒ガス攻撃に對して國家及國民を防禦するのは政府の責務であるといつてゐる。今日英國は毎年二十萬ポンド内外を毒ガス戰部に支出し絶對秘密の下に銳意之が充實を講じてゐるのは公然の事實だ。佛伊兩國も亦毒ガス戰部の充實に最善を盡してゐる。フォッシュ元帥の如きは「毒ガスの使用を禁止するものとすれば戰爭勃發そのものを禁止し得べし」と喝破したがさすが軍人らしい卒直さで面白い。就中ソヴエートロシヤに至つては軍部施設民間施設との兩者相呼應して極めて有力なる毒ガス戰部を組織し將來の化學戰に必勝を期してゐる。茲に



最近世界列強毒ガス戦部に於ける充實施設の大要を示せば概略左の如し。

露國I軍部の施設

化學戰特別研究委員會

化學兵器製造所

四箇所

化學戰學校

本部

化學戰部

モスコ—化學聯隊

第一乃至  
第三大隊

モスコ—化學獨立大隊

本部  
ガス中隊  
火焰中隊  
附屬機關

中隊以上には化學隊を附す。

歩兵聯隊にはガス室を有す。

2 民間施設

國防航空化學協會

保健大臣は全國の醫師及び獸醫に對し毒ガス研究を命ず。

米國

化學戰部

評議委員會  
技術委員會

本部

エツチウッド工廠  
ガス—聯隊 (十二中隊)

化學戰學校

英國

化學戰研究は海陸空軍の共同事業として陸軍大臣之を主宰し左の研究施設を置く。

1 化學戰部

(1) 本部の化學戰委員會

(2) ボルトン研究所

(3) サットンウオーク研究所

攻撃防禦に於ける諸試験並に研究に任ず

2 化學戰學校

佛國I陸軍省軍用化學課オーベルピリエー試験所

研究部  
製造部  
教習部  
ガス教導隊

2 ガス防護材料監査部

防毒具の整備検査並に關係將校下士の教育に任ず。

3 海軍は研究教育を陸軍に委託し其の防毒面は陸軍關係工場製のものを使用す。

伊國 陸海空軍の化學戰研究機關を合し陸軍省の直轄とし之に所要の實驗並に教育機關等を配屬す。

化學戰部—中央軍用化學研究所

本部  
化學部  
療法部  
技術部  
實驗部

特別班  
ガス教導隊  
化學戰學校

ドイツ 條約により禁止され特に化學兵器に關する施設なきも元來化學工業染料工業の發達著しきを以て有事の際多量の毒ガスを製造する事容易なり。消防隊にガス防護の教育を施しあるは注目價す。

ソヴェートロシアの化學戰部に至つては驚異すべき發展振りを示し一九二二年頃より來たるべき極東大戰が必ず化學戰たるべき事を確信して爾來著々化學戰部の充實發展に努力を續けてゐるのだ。茲に參考の爲ソヴェート化學戰部の獨特の施設とも云ふべき民間化學戰部たる航空化學協會の概要を示す。

露國の航空化學協會

本協會は民間機關であるが政府當局の指導と國庫補助を受けて維持さる。航空機並に化學兵器の進歩發達を圖るを目的とし各縣各郡等に支部を有し會員並に會費を左の如く區分す。

|         |    |        |
|---------|----|--------|
| 勞働者及勤務者 | 年額 | 六〇コベツク |
| 農民及赤兵   | 年額 | 三〇コベツク |
| 學生及少年團  | 年額 | 一〇コベツク |

一九二六年度に於ける會員數二百五萬八千人細胞(單位)數三萬七千六百資金七百萬ルーブルに達したと傳へらる。而して毒ガスの特色とするは新發見の毒ガスに對してはその消毒法の發見せられる迄全く防毒の手段なく、充分その害毒を受けるにある。

戰車及び戰車隊に就て

今日の第一線は上では兩翼相摩す空中戰下では塹壕の土籠合戰だ。塹壕からうつかり頭を出せば機關銃や速射砲で雨霰の御馳走だ。鐵條網は蜘蛛の巢同様引つ張り廻はされてあるとしたらその際最も重要な役目を持つのが戰車なる事は容易に察せら

れる。所で日本は今日戰車僅かに四十輛と云ふ貧弱さで久留米に一中隊あるのみ。ロシアの戰車百八十輛裝甲自動車三百七十輛裝甲列車六十一輛に比し丸で問題にならぬ。實際ロシア陸軍が何から何迄日本陸軍をリードしてゐるのは聊か以て癢に障らざるを得ぬ。日本もどしどし造ればよいと思ふがそうは問屋が卸さぬ。戰車は小型約五萬圓から大型約十五六萬圓假りに平均一臺十萬圓と見積つても千臺作るには大枚一億圓を要する。結局之亦金の問題だ。國防充實の問題は常に此の點で苦勞する。が國防全からずんば國家の運命は風前の燈火だ。國防上必要なる兵器は是非共之を充實せざるを得ない。ソヴェート政府はちやんと腰が立つてゐるから軍備にばかり金を注ぎ込む。戰爭近しと見て國防第一主義から國家一切の施設を割り出してゐるのだ。我陸軍は、がつちり武裝してなければならぬ。否我々は奮發して取急いで武裝してやらねばならぬ。歐米列強に於ける戰車隊の状況左の通り。

歐米列強現有戰車隊比較

- 露國 一、戰車隊 一六(約一八〇輛)  
二、裝甲自動車隊 三四(約三七〇輛)  
三、裝甲列車 六一輛
- 米國 一、重戰車一大隊(三中隊) 輕戰車一大隊(三中隊)と四中隊 計十中隊別に特殊大隊一あり。  
二、戰車數三六〇輛 豫備戰車多數 合計約一〇〇〇輛
- 英國 一、戰車四大隊(十二中隊) 裝甲自動車 十中隊  
二、將校三〇六名 准士官以下四一八〇名 計四四八六名  
三、戰車 二二〇輛 裝甲自動車約二〇〇輛  
四、歩騎兵用輕戰車數百を有す。
- 佛國 一、輕戰車 十聯隊(六〇中隊)と一聯隊(重戰車一大隊 輕戰車三大隊)  
二、戰車數 一五〇〇輛 其他豫備戰車多數

伊國 一、一聯隊（二大隊）

二、戰車四八輛 牽引車五〇輛 輕裝甲自動車一四輛 重裝甲自動車十二輛

ドイツ 條約により戰車隊は禁止さる。

日本 一、戰車隊 一（一中隊） 二、戰車數 四〇輛

ついでに日英米陸軍現有勢力の比較は

日本 平時兵力二十三萬 2 十七師團 3 陸軍型飛行機六百 4 高射砲四十 5 戰車四〇

米國 平時兵力正規軍十三萬四千五百（航空兵約一萬七千五百）護國軍十八萬一千三百 合計三十一萬五千七百

2 正規軍は歩兵九師團騎兵三師團 護國軍 歩兵十八師團 騎兵四師團

3 陸軍型飛行機千五百 4 高射砲三〇九同機關銃四八一三 5 戰車三六〇其他豫備多數 合計約一千

英國 平時兵力正規軍二十一萬五百（內在印度六萬）外に空軍三萬二千 地方軍十三萬九千四百 合計空軍を除き三四萬九千

九百。以上の外海外自治領に有する兵力（市民及土人軍を含む）三十七萬七千。總計七十二萬七千。本國に歩兵四師

騎兵十七聯隊砲兵百五十三中隊。印度に歩兵四師騎兵五聯隊砲兵六十五中隊。

## 奮起せよ青年！！

松 宮 實

我が日本は今や危急の秋に遭遇してゐる。何が然らしめたか。曰く思想國難、曰く經濟國難、曰く文明の行詰りとは認識不足なる者の癡言である。思慮淺薄なる者の放言である。虛言である。失言である。我等はかゝる單純な而も不完全

な言葉による説明を以て得々としてゐることは最早や不可能である。斯う云ふと自分は何にも識者の様に思はれるが決してさうではないのである。

苟しくも國家多事の今日に生命を有してゐる我等、殊に近代文明の偉大なる感化、影響を受けて、理想の社會へと突進しつゝある我等青年の必ず熟考すべき問題である。而して此の重大問題を解決すべき大任は、將來の日本帝國を雙肩に擔つて立つべき大任と共に我等青年の任務である。

然るに現代青年の日常生活や如何？

舶來！ 舶來と何でも舶來でなくてはならぬ所謂西歐化した生活に走つては居ないだらうか？

鳥跡を棄て、蟹行に走る とは日本に於ては古來謂はれて來た。併し日本の西歐化は餘りにも急速を極めたものである。歐洲諸國が數世紀を要したものを日本は驚く勿れ、僅か半世紀にして成就したのである。元來日本の西歐化が果して何時まで續くかは一つの疑問である。併し現在の日本は、正しく西歐化した日本であり、近代化した日本であり、獨り近代文明が日本——眞の日本を犯してゐるのみならず、日本そのものが既に西歐諸國に並行した高度文明の一西歐的國家であることは最早や疑ふ餘地はないのである。

我が國の大都市の風景は最早やその來往する市民の皮膚の色を除いては殆どロンドンやベルリン、ニューヨーク、パリーのそれに異る所なきまでに達してゐる。否、既に我々日本人はロンドン其他の保守的な市民よりも一層米國文明に接する機會が多いといふことによつて現在或方面に於ては歐洲諸國よりも更に更に高度の文明に達してゐる。而して所謂新日本なるものが現出さるゝに至つた。それは實に喜ばしいことだ。我等日本人特に我等青年にとつては誠に心強いことだ。

併し新日本とは如何なる意味を有するものか。新日本とは一種の舶來品だ。西歐化！！西歐化の叫ばれた結果、彼等が我日本に贈つた舶來品なのだ。その言葉の有するあらゆる意味に於て舶來品である。ウイスキーや葡萄酒等が舶來品であると同じく新日本とは一つの舶來品である。日本は失はれた。あらゆる純日本的特質を有して居たものが失はれてしまつた。文明と、進歩と、大日本とを贏ち得んが爲めに却つて我々は我々の日本、歴史と傳統に輝く日本を失つてしまつたのだ。然らば我々は日

本を失つて何ものを得たか。我々は日本を失つてから、もとより世界の高度文明を勝ち得たのである。我が日本人が嘗て理想とした大日本は、遂にヨーロッパ化した新日本、そして又アメリカ化した日本を勝ち得たのである。アジア的な靜かな社會は既に過ぎ去つたのだ。

老莊的回歸思想が滅亡してスペンサー的進歩觀念が支配したのである。印度的運命觀が亡びて白人的享樂主義がそれに立ち代つたのである。文明は永遠の發展、永遠の進化、永遠に流轉して已むことなき辯證法的進歩の過程であるといふ觀念が我々の信條にと化せられたのである。此の信條を抱いて既に半世紀、我々は遂に無限の發展なるか。人口問題は何が故に起つて来たか、食糧問題は何が故に重要さを加へて来たか。現今の不景氣なるものは單なる不景氣即ち一時的の現象であるか、大戦後の入超は抑も〜我々に何を物語つてゐるか。此の生活不安と社會不安と政治不安、そして思想不安とは我々に何を物語つてゐるか。

今日の經濟的行詰りと而して勞働爭議とは何を我々に呼びかけてゐるか。しかも我々は遂に西洋文明から何物を學び得たか。西洋的生活と理想とは果してアジア的生活と理想に比してより高きもの、より優れたものであるのか。

徳川幕府三百年の鎖國の反動として我が日本人の頭に浮んだのが、否、日本人が憧憬し、理想とするに至つたのが即ち西歐化であつたことは確かだ。日本の西歐化は一つの勢ひであつた。我々は遂に世界の形勢から孤立してゐることは出来なかつたのである。唯日本人は西歐化せんことをのみ切望してゐた。それ故彼等の長所のみが眼に映じたのだ。否、かゝる場合には何事につけてもさうありがちなものである。そこが普通人間の共通の弱點である。ヨーロッパ人がその弱點を見越して彼等の世界政策を完成せんとして東洋にその魔手を伸ばしてゐたことを當時の日本人は知らなかつたのである。といふよりそれ位世界情勢に疎かつたのだ。

そこに日本人が覺醒して理想とし、憧憬するに至つたのが此の西歐化であつたのだ。日本の西歐化に於ける成功が日本をして政治的に獨立を失はしめなかつた所の有力な理由であつたことは確かだ。否、それが日露戰爭に於ける我が國の勝利を通じて、ヨーロッパ人の世界政策に一つの挫折と、失望とそして世界歴史の一轉機に對して一つの偉大なる刺戟を與へたことは事

實だ。併しその結果は遂に如何なるものであつたか。日本、眞實の日本を埋没して我々は果して如何なるものを勝ち得たか。吾人は果して永遠の進歩、永遠の發展、永遠の膨脹を享有しつゝあり、又將來永遠に之れを確保し得るや否や。今日に於ける日本の問題は最早や單なる日本の問題に止まらないのである。而してそれは最早や日本限りに於て決定せらるゝ如き孤立的のものに非ずして、世界と共に解決されるものである。否、今日に於ては世界それ自体が決定する代りに決定されるのである。これが機械的社會の特質である。

今次の滿洲事變勃發と共に國際聯盟なる機關が活動を開始したる如きそれである。されば日本の現在及び將來の問題は又世界の現在及び將來の問題と切離して論ずることはナポレオンならいざ知らず最早や出来ないのである。

世界は今日如何なる方向に向つて進んでゐるか。

我々は茲に深く意をとめて世界に於ける日本の地位を確立すると共に、眞實の日本即ち純日本的特質を失はない様に努力せねばならぬ。これが將來の日本を背負つて立つべき我等青年の使命である。

滿蒙の天地は今や世界列強の注目裡に我日本の手に落ちんとしてゐる。而して我同胞は身命を屠してその局に當つてゐる。而も我等は安閑として居られるか。

眼醒めんか？ 時は來た!!

我等若きものの活躍すべき舞臺が眼前に展開してゐるではないか。奮へ!! 青年!

さぞ起て、雄々しく

一九三二・一二・三二 (完)

## 自 ら 考 へ よ

藤 野 精 一